

1 次独立・1 次従属 問題 1 解答

1 (i) $x_1\mathbf{a}_1 + x_2\mathbf{a}_2 + x_3\mathbf{a}_3 = \mathbf{o}$ とする. このとき

$$[\mathbf{a}_1 \quad \mathbf{a}_2 \quad \mathbf{a}_3] \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix} = \mathbf{o}. \quad (0.1)$$

連立 1 次方程式 (0.1) を解くために係数行列 $[\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3]$ を行基本変形すると

$$[\mathbf{a}_1 \quad \mathbf{a}_2 \quad \mathbf{a}_3] = \begin{bmatrix} 1 & -1 & 3 \\ 2 & -1 & 5 \\ 2 & 3 & 1 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & -1 & 3 \\ 0 & 1 & -1 \\ 0 & 5 & -5 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 2 \\ 0 & 1 & -1 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}.$$

ここで 1 回目の基本変形では第 1 行の 2 倍を第 2 行, 第 3 行からそれぞれ引き, 2 回目の基本変形では第 2 行, 第 2 行の (-5) 倍を第 1 行, 第 3 行にそれぞれ加えた. よって, 方程式 (0.1) の解は

$$\begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix} = c \begin{bmatrix} -2 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix} \quad (c \text{ は任意定数})$$

となる. とくに $c = 1$ の場合を考えれば, ベクトルの組 $\{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3\}$ の間には非自明な 1 次関係式 $-2\mathbf{a}_1 + \mathbf{a}_2 + \mathbf{a}_3 = \mathbf{o}$ が成立することがわかるので, $\{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3\}$ は 1 次従属だとわかる.

(ii) $x_1\mathbf{a}_1 + x_2\mathbf{a}_2 + x_3\mathbf{a}_3 = \mathbf{o}$ とする. このとき

$$[\mathbf{a}_1 \quad \mathbf{a}_2 \quad \mathbf{a}_3] \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix} = \mathbf{o}. \quad (0.2)$$

連立 1 次方程式 (0.2) を解くために係数行列 $[\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3]$ を行基本変形すると

$$\begin{aligned} [\mathbf{a}_1 \quad \mathbf{a}_2 \quad \mathbf{a}_3] &= \begin{bmatrix} 1 & -1 & 2 \\ 2 & -1 & 3 \\ 2 & 3 & 1 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & -1 & 2 \\ 0 & 1 & -1 \\ 0 & 5 & -3 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & -1 \\ 0 & 0 & 2 \end{bmatrix} \rightarrow \dots \\ &\dots \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & -1 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}. \end{aligned}$$

ここで 1 回目の基本変形では第 1 行の 2 倍を第 2 行, 第 3 行からそれぞれ引き, 2 回目の基本変形では第 2 行, 第 2 行の (-5) 倍を第 1 行, 第 3 行にそれぞれ加えた. さらに 3 回目の基本変形では第 3 行を $1/2$ 倍し, 最後の基本変形では第 3 行を第 1 行から引き, 第 2 行に加えた. よって, 方程式 (0.2) の解は

$$\begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix}$$

とわかるので, $\{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3\}$ は 1 次独立だとわかる.

別解

(i) \mathbf{a}_i を第 i 列 ($i = 1, 2, 3$) に並べた行列を A とおく. A を行基本変形すると

$$A = [\mathbf{a}_1 \quad \mathbf{a}_2 \quad \mathbf{a}_3] = \begin{bmatrix} 1 & -1 & 3 \\ 2 & -1 & 5 \\ 2 & 3 & 1 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & -1 & 3 \\ 0 & 1 & -1 \\ 0 & 5 & -5 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 2 \\ 0 & 1 & -1 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix}.$$

したがって $\text{rank } A = 2 \neq 3$ とわかるので $\{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3\}$ は 1 次従属だとわかる.

(ii) \mathbf{a}_i を第 i 列 ($i = 1, 2, 3$) に並べた行列を A とおく. Sarrus の方法より

$$|A| = 1 \cdot (-1) \cdot 1 + 2 \cdot 3 \cdot 2 + (-1) \cdot 3 \cdot 2 - (-1) \cdot 2 \cdot 1 - 1 \cdot 3 \cdot 3 - 2 \cdot (-1) \cdot 2 = 2 \neq 0$$

を得る. したがって $\{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3\}$ は 1 次独立だとわかる.

注意. “1 次”結合, “1 次”独立, “1 次”従属は, 本によってはそれぞれ “線形”結合, “線形”独立, “線形”従属と呼ばれることもある.

Point

$\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_r \in \mathbb{R}^n$, $A = [\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_r]$ とおく. $\{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_r\}$ が 1 次従属か 1 次独立か判定するためには, 連立 1 次方程式 $A\mathbf{x} = \mathbf{o}$ が非自明な解 ($\mathbf{x} = \mathbf{o}$ 以外の解) をもつか, 自明な解 ($\mathbf{x} = \mathbf{o}$) のみをもつか調べればよい. とくに $r = n$ の場合, 以下の 4 つの条件が同値となることにも注意せよ.

- (i) $\{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n\}$ は, 1 次独立である.
- (ii) $\text{rank } A = n$.
- (iii) A は正則である.
- (iv) $|A| \neq 0$.